

# 東日本大震災から3年を前に—3.11の今を考える

福島原発事故避難者の現状、今なお続くさまざまな苦悩をお話しいたします

## 浪江町の爺ちゃんの叫び！

日時 2014年3月9日(日) 午後2時~4時

会場 インゲビル 3階 第1会議室

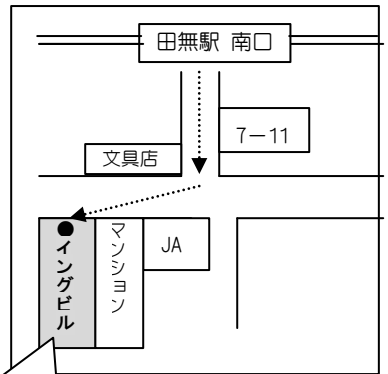
西武新宿線田無駅南口下車 徒歩1分(1階に花屋)

お話 高田 昇さん(福島県浪江町から避難)

会費 無料

定員 40名(直接会場にお越しください)

主催 NPO 法人生活企画ジェフリー



忘れないで東日本大震災。避難先での苦悩と迷路、福島原発地の現状など、浪江町の爺ちゃんの叫びをお聞かせください。



高田昇さん(81歳)

金融機関を退職したのち、浪江植林ボランティア代表として活躍。「豊かな緑の財産を地元から」をスローガンに請戸川上流の国有林を活動フィールドとして森林整備を行ってきたが、福島第一原発事故により活動場所が警戒区域に指定され、会員も避難中のため、活動は休止状態。平成24年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受けた。現在は川崎市在住。

高田さんは避難生活のやるせない思いを川柳にしたためてきました。

- ・年賀状 三枚ついただけ 避難先
- ・ふるさとは 遠い仮設で 盆 正月
- ・ふるさとは 原発文化に 引き裂かれ
- ・ふるさとは 立入禁止で 近寄れず
- ・花笑顔の ふるさとには もう帰れない
- ・ふるさと50 孫50パーだが 孫に附く
- ・原発ムラ 住民票だけ残り 人は空(から)

■NPO 法人生活企画ジェフリー (188-0012 西東京市南町4-13-26)

避難体験の聞き取り集『3.11の現実—そして、私たちはこの町にきた』を編集・発行

■問合せ わたなべ (TEL: 042-467-2089)

